

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 近畿財務局長

**【提出日】** 平成23年2月10日

**【四半期会計期間】** 第20期第3四半期(自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)

**【会社名】** 株式会社誠建設工業

**【英訳名】** Makoto Construction CO,Ltd

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 小島 一 誠

**【本店の所在の場所】** 大阪府堺市中区福田46番地

**【電話番号】** 072-234-8410

**【事務連絡者氏名】** 取締役 中村 剛 司

**【最寄りの連絡場所】** 大阪府堺市中区福田46番地

**【電話番号】** 072-234-8410

**【事務連絡者氏名】** 取締役 中村 剛 司

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### 連結経営指標等

回次	第19期 第3四半期連結 累計期間	第20期 第3四半期連結 累計期間	第19期 第3四半期連結 会計期間	第20期 第3四半期連結 会計期間	第19期
会計期間	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成22年 4月1日 至 平成22年 12月31日	自 平成21年 10月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成22年 10月1日 至 平成22年 12月31日	自 平成21年 4月1日 至 平成22年 3月31日
売上高 (千円)	2,756,137	3,322,778	1,116,365	1,104,952	4,397,085
経常利益又は経常損失( ) (千円)	5,531	158,662	30,738	33,012	134,615
四半期(当期)純利益又は 四 半期純損失( ) (千円)	5,707	4,554	15,473	39,469	81,572
純資産額 (千円)			2,212,839	2,288,272	2,294,745
総資産額 (千円)			5,586,087	5,497,463	5,504,935
1株当たり純資産額 (円)			109,982.10	113,731.22	114,052.94
1株当たり四半期(当期)純利 益又は四半期純損失( ) (円)	283.65	226.35	769.04	1,961.73	4,054.32
潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利 益 (円)					
自己資本比率 (%)			39.6	41.6	41.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	714,717	219,309			125,503
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	17,339	43,053			19,227
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	641,338	155,213			363,471
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)			556,188	448,070	865,647
従業員数 (名)			50	50	50

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、第19期第3四半期連結累計期間及び第20期第3四半期連結会計期間は、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

第20期第3四半期連結累計期間及び第19期第3四半期連結会計期間並びに第19期は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動については、「3 関係会社の状況」に記載しております。

## 3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年12月31日現在	
セグメントの名称	従業員数(名)
戸建分譲住宅事業	32
不動産仲介事業	12
全社（共通）	6
合計	50

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。  
2 全社(共通)は、管理課の従業員であります。

### (2) 提出会社の状況

平成22年12月31日現在	
従業員数(名)	38

- (注) 従業員は就業人員であります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		戸数	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
戸建分譲住宅事業	建売住宅事業	24	565,175	
	請負住宅事業	33	440,984	
不動産仲介事業				
合計		57	1,006,160	

- (注) 1 当第3四半期連結会計期間中に完成した物件の販売価格を以って生産高としております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3 請負住宅事業における「戸数」に関して、少額のリフォーム工事等を含んでおりません。

#### (2) 受注実績

当第3四半期連結会計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
戸建分譲住宅事業	建売住宅事業	713,506		380,570	
	請負住宅事業	339,041		326,464	
不動産仲介事業					
合計		1,052,547		707,034	

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3 建売住宅事業は契約を以って受注としております。  
4 請負住宅事業における「戸数」に関して、少額のリフォーム工事等を含んでおりません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		戸数	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
戸建分譲住宅事業	建売住宅事業	25	650,197	
	請負住宅事業	33	440,984	
不動産仲介事業			13,770	
合計		58	1,104,952	

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 請負住宅事業における「戸数」に関して、少額のリフォーム工事等を含んでおりません。

3 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
(株)フェニックス建設	214,555	19.2	298,116	27.0

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間における、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

3 【経営上の重要な契約等】

建築請負契約

契約会社名	相手方の名称	契約の名称	契約内容	契約期間
当社	(株)フェニックス建設	取引基本契約	戸建住宅の建築請負	平成15年7月締結 期間1年間自動更新

#### 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

##### (1) 財政状態の分析

###### (流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は4,493百万円となり、前連結会計年度末に比べ31百万円増加いたしました。これは、現金及び預金が407百万円減少いたしました。受取手形・完成工事未収入金が171百万円、たな卸資産が268百万円それぞれ増加したことなどによります。

また、前第3四半期連結会計期間末に比べ47百万円減少いたしました。これは、受取手形・完成工事未収入金が96百万円増加いたしました。現金及び預金が97百万円、たな卸資産が11百万円それぞれ減少したことなどによります。

###### (固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は1,003百万円となり、前連結会計年度末に比べ39百万円減少いたしました。これは、建物及び構築物が13百万円、投資有価証券が9百万円それぞれ減少したことなどによります。

また、前第3四半期連結会計期間末に比べ41百万円減少いたしました。これは、建物及び構築物が18百万円、投資有価証券が14百万円それぞれ減少したことなどによります。

###### (流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は2,379百万円となり、前連結会計年度末に比べ197百万円減少いたしました。これは、支払手形・工事未払金が119百万円増加いたしました。短期借入金が18百万円、1年内返済予定の長期借入金が215百万円、1年内償還予定の社債が65百万円、未払法人税等が40百万円それぞれ減少したことなどによります。

また、前第3四半期連結会計期間末に比べ150百万円増加いたしました。これは、1年内返済予定の長期借入金が201百万円、1年内償還予定の社債が85百万円減少いたしました。支払手形・工事未払金が151百万円、短期借入金が220百万円それぞれ増加したことなどによります。

###### (固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は829百万円となり、前連結会計年度末に比べ196百万円増加いたしました。これは、社債が40百万円、長期借入金が155百万円それぞれ増加したことなどによります。

また、前第3四半期連結会計期間末に比べ314百万円減少いたしました。これは、社債が15百万円、長期借入金が298百万円それぞれ減少したことなどによります。

###### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は2,288百万円となり、前連結会計年度末に比べ6百万円減少いたしました。これは、四半期純利益4百万円の計上、その他有価証券評価差額金の増加額39百万円、配当金の支払額50百万円などによります。

また、前第3四半期連結会計期間末に比べ75百万円増加いたしました。これは、利益剰余金が41百万円増加、その他有価証券評価差額金の増加額33百万円などによります。

(2) 経営成績の分析

(売上高)

セグメントの名称		当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	
		売上高(千円)	構成比(%)
戸建分譲 住宅事業	建売住宅事業	650,197	58.8
	請負住宅事業	440,984	39.9
不動産仲介事業		13,770	1.3
合計		1,104,952	100.0

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、依然として厳しい雇用情勢や長引く円高、今後の政策支援効果の減退などから企業収益の悪化懸念や株式市場の低迷懸念が払拭できない状況であり、国内景気は引き続き先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属する不動産業界におきましても、住宅エコポイントや住宅ローン減税、住宅取得資金に係る贈与税の非課税枠の拡大などの政策支援の効果はあったものの、デフレや雇用情勢・所得環境の悪化懸念などから、需要の本格的な回復には至りませんでした。

その結果、戸建分譲住宅事業の売上高は1,091百万円となり、不動産仲介事業の売上高は13百万円となりました。

(売上総利益)

当第3四半期連結会計期間の売上総利益は160百万円(戸建分譲住宅事業が146百万円、不動産仲介事業が13百万円)となり、前第3四半期連結会計期間と比較し5百万円(前年同期比3.6%)の減益となりました。

(営業利益)

当第3四半期連結会計期間の営業利益は45百万円となり、前第3四半期連結会計期間と比較し0百万円(前年同期比1.4%)の増益となりました。

(経常利益)

当第3四半期連結会計期間の経常利益は33百万円となり、前第3四半期連結会計期間と比し2百万円(前年同期比7.4%)の増益となりました。

(四半期純損失)

当第3四半期連結会計期間の四半期純損失は39百万円となり、前第3四半期連結会計期間と比較し54百万円(前年同四半期は四半期純利益15百万円)の減益となりました。

### (3) キャッシュ・フローの分析

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の増加額126百万円、投資有価証券評価損59百万円、前渡金の減少額22百万円、未成工事受入金の増加額20百万円等により資金を獲得しましたが、売上債権の増加額132百万円、たな卸資産の増加額36百万円等の結果、14百万円の収入（前年同四半期は391百万円の支出）となりました。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出7百万円、投資有価証券の取得による支出8百万円等の結果、15百万円の支出（前年同四半期は34百万円の支出）となりました。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入80百万円、社債の発行による収入197百万円等により資金を獲得しましたが、長期借入金の返済による支出130百万円、社債の償還による支出66百万円等の結果、79百万円の収入（前年同四半期は424百万円の収入）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は448百万円となり、第2四半期連結会計期間末と比べ78百万円の増加となりました。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。



### 第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	70,000
計	70,000

##### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成22年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,120	20,120	大阪証券取引所 (市場第二部)	(注)
計	20,120	20,120		

(注) 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式です。なお、単元株制度は採用しておりません。

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成22年12月31日		20,120		578,800		317,760

#### (6) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成22年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成22年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,120	20,120	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式			
発行済株式総数	20,120		
総株主の議決権		20,120	

【自己株式等】

平成22年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	65,500	64,500	49,400	48,000	47,450	46,450	46,000	51,800	59,100
最低(円)	45,000	44,200	45,100	44,500	43,000	43,500	43,100	44,300	51,000

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第二部における株価を記載しております。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

なお、前第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び前第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間(平成22年10月1日から平成22年12月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年12月31日まで)は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び前第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間(平成22年10月1日から平成22年12月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2 687,688	2 1,094,875
受取手形・完成工事未収入金	503,695	332,022
販売用不動産	2 1,051,155	2 1,133,928
仕掛販売用不動産	2 2,052,731	2 1,709,000
未成工事支出金	142,579	134,549
その他	63,432	62,065
貸倒引当金	7,380	4,308
流動資産合計	4,493,902	4,462,133
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1, 2 197,098	1, 2 210,620
土地	2 476,776	2 476,776
その他(純額)	1 4,800	1 6,377
有形固定資産合計	678,675	693,774
無形固定資産		
のれん	11,153	11,740
電話加入権	127	127
無形固定資産合計	11,281	11,868
投資その他の資産		
投資有価証券	2 217,102	2 226,347
その他	100,832	115,297
貸倒引当金	4,331	4,485
投資その他の資産合計	313,603	337,159
固定資産合計	1,003,560	1,042,801
資産合計	5,497,463	5,504,935
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金	4 478,833	359,423
短期借入金	2 706,700	2 725,000
1年内返済予定の長期借入金	2 854,370	2 1,069,730
1年内償還予定の社債	215,200	280,200
未払法人税等	24,517	64,663
賞与引当金	1,457	6,546
完成工事補償引当金	2,381	2,127
その他	96,482	69,541
流動負債合計	2,379,942	2,577,232
固定負債		
社債	463,600	422,800
長期借入金	2 365,648	2 210,158
固定負債合計	829,248	632,958
負債合計	3,209,190	3,210,190

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	578,800	578,800
資本剰余金	317,760	317,760
利益剰余金	1,418,095	1,463,841
株主資本合計	2,314,655	2,360,401
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	26,383	65,656
評価・換算差額等合計	26,383	65,656
純資産合計	2,288,272	2,294,745
負債純資産合計	5,497,463	5,504,935

(2)【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	2,756,137	3,322,778
売上原価	2,404,870	2,789,624
売上総利益	351,267	533,153
販売費及び一般管理費		
役員報酬	36,594	37,186
給料及び手当	77,264	77,302
賞与引当金繰入額	923	686
法定福利費	16,311	15,804
販売手数料	17,118	27,937
広告宣伝費	37,453	40,927
租税公課	33,705	36,492
支払手数料	59,941	55,663
減価償却費	14,269	13,615
のれん償却額	587	587
その他	34,186	39,121
販売費及び一般管理費合計	328,355	345,326
営業利益	22,912	187,827
営業外収益		
受取利息	620	586
受取配当金	6,287	3,276
受取賃貸料	13,543	13,927
雑収入	2,660	1,814
営業外収益合計	23,112	19,604
営業外費用		
支払利息	38,032	38,244
支払保証料	5,720	3,958
雑支出	7,803	6,566
営業外費用合計	51,556	48,769
経常利益又は経常損失( )	5,531	158,662
特別損失		
投資有価証券評価損	-	92,302
特別損失合計	-	92,302
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	5,531	66,360
法人税、住民税及び事業税	2,301	55,913
法人税等調整額	2,125	5,893
法人税等合計	175	61,806
少数株主損益調整前四半期純利益	-	4,554
少数株主利益	-	-
四半期純利益又は四半期純損失( )	5,707	4,554

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	1,116,365	1,104,952
売上原価	950,087	944,629
売上総利益	166,277	160,322
販売費及び一般管理費		
役員報酬	12,198	12,395
給料及び手当	25,415	24,791
賞与引当金繰入額	923	686
法定福利費	5,452	4,747
販売手数料	9,718	10,290
広告宣伝費	13,787	12,914
租税公課	15,063	11,644
支払手数料	22,934	16,314
減価償却費	4,403	4,637
のれん償却額	195	195
その他	10,980	15,846
販売費及び一般管理費合計	121,074	114,464
営業利益	45,203	45,858
営業外収益		
受取利息	36	68
受取配当金	1,276	0
受取賃貸料	4,705	4,516
雑収入	402	365
営業外収益合計	6,420	4,949
営業外費用		
支払利息	13,385	12,546
支払保証料	1,848	1,280
雑支出	5,651	3,969
営業外費用合計	20,885	17,796
経常利益	30,738	33,012
特別損失		
投資有価証券評価損	-	59,774
特別損失合計	-	59,774
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	30,738	26,762
法人税、住民税及び事業税	819	11,863
法人税等調整額	16,084	844
法人税等合計	15,265	12,707
少数株主損益調整前四半期純損失( )	-	39,469
少数株主利益	-	-
四半期純利益又は四半期純損失( )	15,473	39,469



## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	5,531	66,360
減価償却費	18,535	18,027
のれん償却額	587	587
社債発行費	4,031	2,692
貸倒引当金の増減額( は減少)	589	2,918
賞与引当金の増減額( は減少)	5,230	5,088
完成工事補償引当金の増減額( は減少)	94	253
受取利息及び受取配当金	6,908	3,862
支払利息	38,032	38,244
投資有価証券評価損益( は益)	-	92,302
売上債権の増減額( は増加)	48,800	171,673
たな卸資産の増減額( は増加)	817,302	268,988
仕入債務の増減額( は減少)	86,891	119,409
前渡金の増減額( は増加)	11,600	8,813
前受金の増減額( は減少)	5,450	5,300
未成工事受入金の増減額( は減少)	2,400	30,600
その他	15,131	11,420
小計	638,079	93,152
利息及び配当金の受取額	6,908	3,862
利息の支払額	37,092	35,388
法人税等の支払額	46,453	94,632
営業活動によるキャッシュ・フロー	714,717	219,309
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	96,056	22,902
定期預金の払戻による収入	102,133	-
投資有価証券の取得による支出	13,142	20,150
有形固定資産の取得による支出	654	2,929
保険積立金の積立による支出	504	794
長期貸付金の回収による収入	443	412
差入保証金の差入による支出	10	10
その他	9,550	3,320
投資活動によるキャッシュ・フロー	17,339	43,053
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	44,291	18,300
長期借入れによる収入	977,000	393,000
長期借入金の返済による支出	253,752	452,870
社債の発行による収入	295,968	197,307
社債の償還による支出	386,000	224,200
配当金の支払額	36,168	50,151
財務活動によるキャッシュ・フロー	641,338	155,213
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	90,718	417,576
現金及び現金同等物の期首残高	646,906	865,647
現金及び現金同等物の四半期末残高	556,188	448,070

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日至平成22年12月31日)
会計処理の原則及び手続の変更 「資産除去債務に関する会計基準」等の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日）を適用しております。 なお、これによる損益に与える影響はありません。

【表示方法の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日至平成22年12月31日)
(四半期連結損益計算書関係) 「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号平成20年12月26日）に基づき財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令（平成21年3月24日内閣府令第5号）の適用に伴い、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日至平成22年12月31日)
(四半期連結損益計算書関係) 「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号平成20年12月26日）に基づき財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令（平成21年3月24日内閣府令第5号）の適用に伴い、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失( )」の科目を表示しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1 有形固定資産の減価償却累計額 198,822 千円	1 有形固定資産の減価償却累計額 180,794 千円
2 担保提供資産及び対応債務 担保に供している資産及びこれに対応する債務は、次のとおりです。 (イ)担保に供している資産 現金及び預金 37,250 千円 販売用不動産 313,656 仕掛販売用不動産 1,478,630 建物及び構築物 166,141 土地 408,661 投資有価証券 91,807 計 2,496,148  (ロ)上記に対応する債務 短期借入金 706,700 千円 1年内返済予定の 長期借入金 807,810 長期借入金 251,308 計 1,765,818	2 担保提供資産及び対応債務 担保に供している資産及びこれに対応する債務は、次のとおりです。 (イ)担保に供している資産 現金及び預金 37,236 千円 販売用不動産 394,621 仕掛販売用不動産 1,348,888 建物及び構築物 180,235 土地 408,661 投資有価証券 107,307 計 2,476,950  (ロ)上記に対応する債務 短期借入金 674,800 千円 1年内返済予定の 長期借入金 1,029,170 長期借入金 91,278 計 1,795,248
3 受取手形裏書譲渡高 304,784 千円	3 受取手形裏書譲渡高 328,966 千円
4 第3四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。 なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の当第3四半期連結会計期間末日満期手形が当第3四半期連結会計期間末残高に含まれております。 支払手形 70,280 千円	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年12月31日) 現金及び預金 785,336 千円 預入期間が3か月超の定期預金 229,148 現金及び現金同等物 556,188	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年12月31日) 現金及び預金 687,688 千円 預入期間が3か月超の定期預金 239,617 現金及び現金同等物 448,070

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日  
至平成22年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	20,120

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	50,300	2,500	平成22年3月31日	平成22年6月28日

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効  
力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

5 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

**【事業の種類別セグメント情報】**

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

全セグメントの売上高及び営業利益の合計額に占める「戸建分譲住宅事業」の割合がいずれも90%を超えているため、記載を省略しております。

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

全セグメントの売上高及び営業利益の合計額に占める「戸建分譲住宅事業」の割合がいずれも90%を超えているため、記載を省略しております。

**【所在地別セグメント情報】**

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

在外連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

在外連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

**【海外売上高】**

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

海外に対する売上高がないため、該当事項はありません。

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

海外に対する売上高がないため、該当事項はありません。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、営業部門ごとに取り扱う商品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、営業部門を基礎とした商品・サービス別のセグメントから構成されており、建売住宅事業、請負住宅事業(総称して戸建分譲住宅事業)及び不動産仲介事業の3つを報告セグメントとしております。

「建売住宅事業」は、主に堺市を中心として建売住宅の販売を行っております。

「請負住宅事業」は、不動産業者からの「請負住宅」、一般顧客からの「注文住宅・リフォーム」を行っております。

「不動産仲介事業」は、主として親会社である当社の建築した建売住宅の販売仲介業務を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	戸建分譲住宅事業			不動産 仲 介事業	合計		
	建売住宅 事業	請負住宅 事業	小計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,278,875	988,816	3,267,691	55,086	3,322,778		3,322,778
セグメント間の内部売上高 又は振替高		162,954	162,954	31,686	194,640	194,640	
計	2,278,875	1,151,770	3,430,645	86,773	3,517,419	194,640	3,322,778
セグメント利益	320,119	163,869	483,989	86,773	570,763	37,609	533,153

(注)1. セグメント利益の調整額は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間(自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	戸建分譲住宅事業			不動産 仲 介事業	合計		
	建売住宅 事業	請負住宅 事業	小計				
売上高							
外部顧客への売上高	650,197	440,984	1,091,182	13,770	1,104,952		1,104,952
セグメント間の内部売上高 又は振替高		87,501	87,501	5,394	92,895	92,895	
計	650,197	528,486	1,178,683	19,164	1,197,847	92,895	1,104,952
セグメント利益	74,841	79,418	154,259	19,164	173,424	13,101	160,322

(注)1. セグメント利益の調整額は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と調整を行っております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められません。

(1株当たり情報)

1.1株当たり純資産

当第3期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
113,731.22円	114,052.94円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	2,288,272	2,294,745
普通株式に係る純資産額(千円)	2,288,272	2,294,745
差額の主な内訳		
普通株式の発行済株式数(株)	20,120	20,120
普通株式の自己株式数(株)		
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	20,120	20,120

2.1株当たり四半期純利益金額等

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期純損失 283.65円	1株当たり四半期純利益 226.35円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 円	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当第3四半期連結累計期間は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

また、前第3四半期連結累計期間については、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり四半期純利益又は四半期純損失の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益又は四半期純損失( ) (千円)	5,707	4,554
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失( ) (千円)	5,707	4,554
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式の期中平均株式数(株)	20,120	20,120



第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	
1株当たり四半期純利益	769.04円	1株当たり四半期純損失	1,961.73円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	円	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当第3四半期連結会計期間は、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

また、前第3四半期連結会計期間については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり四半期純利益又は四半期純損失の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益又は四半期純損失( )(千円)	15,473	39,469
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失( )(千円)(千円)	15,473	39,469
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式の期中平均株式数(株)	20,120	20,120

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月10日

株式会社誠建設工業  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 伊藤嘉章 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 豊原弘行 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社誠建設工業の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社誠建設工業及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年2月10日

株式会社誠建設工業  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 荒井 憲 一 郎 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 豊原 弘 行 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社誠建設工業の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成22年10月1日から平成22年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社誠建設工業及び連結子会社の平成22年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。